国際医療福祉大学
2017年11月22日発行 学校法人国際医療福祉大学
http://www.iuhw.ac.jp/

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol.111
November
2017

海外保健福祉事情 ラオスにて

国際医療福祉大学成田病院起工式

海外保健福祉事情

台湾、ベトナム、タイ、ミャンマー、ラオス、オーストラリア、韓国、マレーシア、フィリピン

5キャンパス学園祭写真特集

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部、大学院医学研究科　設置認可

特集 成田病院 起工式

2020年開設予定

国際医療福祉大学成田病院 起工式

国際医療福祉大学は九月二九日、六つ目の附属病院となる国際医療福祉大学成田病院（千葉県成田市）の起工式・安全祈願祭を執り行った。東京オリンピック・パラリンピックが開催される二〇二〇年四月開設予定で、海外とのネットワークの拠点となる世界基準のハブ病院とともに、成田市の地域医療にも貢献することをめざす。

起工式は成田市の小泉一成市長をはじめ成田市議会の伊藤竹夫議長、成田市医師団の国保能彦団長、遠山地区区長会の伊藤卓会長、学校法人国際医療福祉大学の高木邦格理事長、大友邦学長、成田国際医療都市機構の渡邉勝彦理事長、戸田建設の今井雅則社長ら多数が参列した。

国際医療福祉大学成田病院は、今年四月に医学部を開設した成田キャンパスから約八キロの距離にある成田市畑ケ田に誕生する。患者様の受け入れ態勢などを勘案して二〇二一年から医学部の主な臨床実習の場となる。最新医療機器と充実したアメニティを備え、地域医療で一定の役割を果たすとともに、国の内外の患者様へ最先端の医療を提供する「世界基準のハブ病院」を目標にしている。

また、海外の大学、医療機関との連携拠点となる「国際遠隔画像診断センター」や「感染症国際研究センター」を設置。多言語に対応できる体制を整え、各国の食事の提供や、宗教関連スペースの整備も予定している。日本最大級の人間ドックセンターを備えた予防医学健診センターや、プールやフィットネススタジオなどを併設した健康増進センターの設置も計画している。医師や看護師ら職員用の宿舎二棟（約三七〇戸）や児童を対象とした事業所内保育所（約三〇名収容）などを建設し、ここで働く人たちへ充実した就業環境を提供する。

成田病院完成時には、医師や職員を合わせて約五〇〇〇人の人口増が見込まれているほか、医療関連産業の集積などによってさらに三〇〇〇人の雇用増が期待されている。

起工式で小泉市長は挨拶され、「成田病院は医学部の附属病院として、ここで学んだ学生が優秀な医師として頼もしく成長されることを期待するとともに、大学病院が開設されることにより、新たなまちづくりの核として地域の活性化に大いに寄与していただけるものと期待している。また、成田国際空港の一番近くに立地する大学病院となることから、国内外から多くの患者様を受け入れ、高度な医療を提供することができる国際的な医療拠点として大きく発展されることを願っています」とエールを送った。

続いて、高木理事長は、「さまざまな国から患者様が訪れるような国際競争力のある世界的なハブ病院の開設を日本で初めてめざします。同時に、地域の医療関係者さまと相談をしながら、地域医療に貢献する病院にしてまいります。ゆくゆくは、医療関連の企業、研究所などが整備され、この成田の地に国際医療都市が形成されることを望んでおります」と決意を述べた。

●完成予想図

●鍬入れの儀

国際医療福祉大学成田病院

（1）開設予定　2020年4月
（2）病床数
642床（一般病床600床、
精神病床　40床、
感染症＜1種＞2床）
（3）診療科　39科（予定）
（4）敷地面積159,605.65㎡、
建築面積　23,816.50㎡、
延床面積123,770.68㎡
（病院棟・健診棟・エネルギーセンター棟、教育研修センター、職員宿舎I、II棟）
（5）総事業費　約700億円

特集 ハンガリーとモスクワを歴訪

ハンガリー

センメルワイス大学と具体的な交流に向けて協議

国際医療福祉大学の高木邦格理事長と北島政樹副理事長らは九月一八日、ハンガリー・ブダペストにあるセンメルワイス大学を訪問し、センメルワイス大学のアーゴシュトン学長はじめ、ジョルジィ副学長、ラスロー医学部長、ゾルタン保健科学学部長らと協議を行った。

Semmelweis University

Semmelweis University had discussions with the Japanese International University of Health and Welfare about faculty- and student exchange opportunities

●センメルワイス大学のWEBサイトに掲載された本学との協議

昨年一一月に本学と締結した交流協定を踏まえ、二校間でどのような交流が可能か、具体的な取り組みについて意見交換した。その結果、まずは学生や教員の短期間交流からスタートして、その後、将来的には医学部生の臨床実習などにもつなげていくことを視野に入れて話し合った。

医学分野だけではなく、リハビリテーションや看護等保健医療分野における交流も検討を進めることになった。また、本学の夏休みや春休みを利用して約二週間、海外研修を実施している総合教育科目「海外保健福祉事情」の学生研修先は現在、約二〇の国や地域を選定しているが、今後、その候補として検討する。

●センメルワイス大学との協議

センメルワイス大学は、一七六九年に医学部が設立されたハンガリーでもっとも歴史のある医科大学。同大の学生のうち、三分の一を留学生が占めているなど国際的で、ハンガリーの高等教育機関として国内外から高い評価を得ている。

北島副理事長は同大の名誉医学博士でもあり、かねてから親交を深めていた同大のシャンドール教授との連携によって、昨年、本学と交流協定を締結した。アーゴシュトン学長、シャンドール教授、マルセル国際関係部長は、今年四月二日、千葉県成田市で開催した本学医学部開学式典にも出席し、同月五日に栃木県の大田原キャンパスと国際医療福祉大学病院を視察している。同病院・消化器外科の吉田昌教授はセンメルワイス大学医学部客員教授で、今後は幅広い協力・交流が展開される見通しだ。

ロシア

モスクワ第一医科大学と交流協定締結へ

センメルワイス大学訪問に先立って、九月一三日には、高木理事長がロシアのモスクワ第一医科大学と、同大学に隣接する日露循環器センターを訪問、フォミン副学長、テルノボイセンター長、バクティオジン教授（東芝メディカル・ロシア責任者）らと協議を行った。

ロシアを代表するモスクワ第一医科大は、ロシアで二五〇年以上の歴史を持つ最も古い医科大学で、国際交流も積極的に展開しており、アジアや欧州から多くの留学生を受入れている。

本学との協議ではフォミン副学長から「両大学はともに充実した教育設備と先進の附属病院を有するなど共通点が多くある。ぜひ、両大学で幅広く医療及び医療研究の分野で協力して、ベストプラクティスを共有していきたい」との申し出があり、交流協定を締結することに合意した。

同大学の附属病院は、欧州最大級の三二〇〇床を持ち、昨年設立された日露循環器センターを併設。同センターでは、MEJ、東芝メディカルの協力を得て、最新の画像診断機器を備えた循環器画像診断トレーニングセンターを運営している。大規模な附属病院を擁する同大との提携は、画像診断分野等での協力のほか、短期の学生・教員の交流、医学部学生の海外臨床実習の研修先としても期待されている。

●モスクワ第一医科大学

トピックス❶

第7回 国際医療福祉大学学会 学術大会

八月二七日、大田原キャンパスにて「第七回国際医療福祉大学学会学術大会」（大会長・佐藤哲夫国際医療福祉大学熱海病院長）を開催した。

今回のメインテーマは「臨床、研究、教育の調和と改革」。

佐藤大会長は開会式のあいさつのなかで、「調和とは上手くつり合いが取れて全体がまとまった状態であり、改革は全体としての体制を維持しながら中身を変えていくことである。多様な職種、学部がある本学グループでは非常に大事なことだ」と述べた。

●開会式であいさつする佐藤大会長

二五八題のポスター発表のほか、各学科等の責任者から推薦され、学長・大学院長から選抜された六題の口述発表や、特別講演、記念講演などが開催された。

特別講演は四月に就任した北村聖医学部長が、「医学部四カ月のあゆみ」をテーマに、理念とカリキュラム、成績評価、学生と教員、学舎、今後に向けて、について紹介。このなかで、二期生に向けて「自覚と矜持をもとう」「素晴らしい伝統の最初のページを書いてゆこう」「獲物をもって旅立つのではなく獲物をとる網とその使い方を学んで旅立とう」と呼びかけていると述べた。

●特別講演 北村医学部長

これらを通して、医療福祉の最前線の知見や、本学が開学以来継続している国際貢献の成果や将来展望などが共有され、メインテーマにふさわしい実りの多い学術大会となった。

さらに、掲示されたポスターと抄録の中から若手研究者奨励賞が選出され、九月一四日、合同教員研修会において、受賞者によるプレゼンテーションと表彰が行われた。

●記念講演 井部大学院教授 看護教育統括責任者

●活発なポスターセッションが行われた

【学術大会プログラム】

■ポスターセッション

■国際医療福祉大学学会総会

■特別講演

「国際医療福祉大学医学部の四カ月のあゆみ」

北村聖　国際医療福祉大学医学部長

（座長　佐藤哲夫　国際医療福祉大学熱海病院長）

■記念講演

「『虎の教え』と『サービスマネジメント論』とともに」

井部俊子　国際医療福祉大学大学院教授

看護教育統括責任者

（座長　三浦総一郎　国際医療福祉大学大学院長）

■口述発表

（座長　丸山仁司　国際医療福祉大学大学院副大学院長）

●「人工エルビーを使用した血管治療・撮影時の被ばく線量測定システムの開発」

細貝良行　保健医療学部放射線・情報科学科　教授

●「自閉症児の模倣障害に関する検討」

岩﨑淳也　成田保健医療学部言語聴覚学科講師

●「糖尿病性末梢神経障害患者の身体活動量低下に関する要因の解明―動作・身体・精神による複合的視点からの検討―」

鈴木啓介　小田原保健医療学部理学療法学科　助教

●「高齢者入居施設でのコミュニケーションロボットの安全性・有効性に関する評価研究」

中村美緒　成田保健医療学部作業療法学科講師

●「吃音・流暢性障害症例への包括的・体系的支援体制の充実―関連施設間の連携による構築―」

前新直志　保健医療学部言語聴覚学科　教授

●「運動リズム由来の心拍変動成分における加齢の影響」

竹内真太　成田保健医療学部理学療法学科助教

【若手研究者奨励賞】

□最優秀賞　下重里江　助教

（保健医療学部理学療法学科）

「体性感覚刺激時のラット側坐核ドーパミン放出におよぼす同核セロトニンの関与」

□優秀賞　佐藤妙子　助教

（保健医療学部言語聴覚学科）

「アルツハイマー病患者の比喩の理解―字義的意味と比喩的意味から―」

□優良賞　町田和　講師

（成田保健医療学部理学療法学科）

「大規模災害時の福祉避難所を想定したシミュレーションゲームの開発と実施」

【関連職種連携実習報告会】

大学学会学術大会の前日に、関連職種連携実習報告会を開催した。これは「チーム医療・チームケア」を学ぶための本学のオリジナルカリキュラム「関連職種連携教育」の最終ステップにあたる。

臨床実習を行った二六チームの発表には、実習先で指導にあたった現場担当者が駆けつけ、学生たちの学修の成果を確認し、さらなる自己研鑽へのヒントを投げかけるとともに、チームが担当した患者さんや利用者の経過が報告された。

発表をまとめたポスターは大学学会学術大会のポスターセッション会場に掲示され、多くの先生方から評価をいただいた。

（大田原キャンパス総務課　豊島功）

トピックス❷

東京赤坂キャンパス

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部が設置認可

東京赤坂キャンパス（赤坂心理・医療福祉マネジメント学部）が八月二九日、文部科学大臣の設置認可を得て、二〇一八年四月の開設が正式に決定した。

●建設中の東京赤坂キャンパス

東京都港区の旧赤坂小学校跡地に、地上一一階地下一階建ての校舎を建設中で、来年二月に竣工の予定だ。同学部には、心理学科（定員六〇名）、医療マネジメント学科（同）を設置する予定で、東京・青山から移転する大学院もあわせて、都心の一等地に学部と大学院の一体教育を行う学術拠点が誕生する。

東京メトロ・赤坂見附駅A出口から徒歩三分というアクセスの良さで、キャンパス内には一〇〇〇人収容の講堂をはじめ、図書館やカフェテリアなどもあり、一般にも開放される。

教員には、各界で実績のあるエキスパートがそろい、少人数教育でチーム医療・経営管理の専門職を育成する。心理学科は臨床重視のカウンセリングで相談者に寄り添う人材を育て、新しい国家資格である「公認心理師」取得のため、大学院進学に直結する授業を行う。医療マネジメント学科では、医療福祉の知識と経営のスキル、チームワークの精神を学ぶことで、医療機関はもちろん、一般企業でも活躍できるスタッフを育成する。

（東京事務所　広報部長　小畑洋一）

大学院　医学研究科

文科省より設置認可 二〇一八年四月開設が決定

大学院医学研究科が一一月一四日、文部科学省より認可され、二〇一八年四月の開設が正式に決定した。医学研究科には医学専攻（博士課程　定員一〇名）、公衆衛生学専攻（修士課程　定員一〇名）を設置、医学部や、三田病院など五つの附属病院をはじめとする関連医療機関と連携し、最先端の研究と幅広い教育で、高度な医療系エキスパートを育成する。

医学研究科長は三浦総一郎大学院長が兼務し、医学専攻主任に辻省次教授（前東京大学ゲノム医科学研究機構長）、公衆衛生学専攻主任には池田俊也教授が就任する予定。成田キャンパスを中心に、大学院が来年四月に移転する東京赤坂キャンパスのほか、大田原、福岡、大川の各キャンパスで、遠隔システム等を利用した授業を行う。

文科省の認可を受けて、一二月一〇日には一〇時三〇分から東京青山の大学院キャンパス五階ホールで、進学説明会を実施する。

International University of Health and Welfare **IUHW** vol.111 November 2017 CONTENTS

3-2 特集 国際医療福祉大学成田病院起工式 センメルワイス大学、モスクワ第一医科大学を訪問

トピックス

4 ❶ 第七回国際医療福祉大学学会学術大会

5 ❷ 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部、大学院医学研究科設置認可

キャンパスレポート

7-6 大田原　JRPSとちぎ主催の「散策の会」に参加、言語聴覚センター見学ツアー、言語聴覚学科～国家試験対策夏季合宿～、第八回キッズスクールに一一九人参加、第七回幸齢者スクール、大田原市赤い羽根共同募金街頭募金に協力、教育後援会会員のつどい、第二一回医療経営戦略セミナーを開催

8 成田　「成田キャンパス模擬患者の会」が発足、第一〇回アジア環太平洋音声言語聴覚学会学術大会開催、栄町まちづくり大学に理学療法学科の教員と学生が参加、医学部一年生が応急手当普及員資格を取得

9 小田原　ときめき国際学校、日本グローバル教育学会全国大会開催

10 大学院　大学院オープンキャンパスを開催、文部科学省がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン

11 福岡　保護者懇談会を開催、合同教員研修会を実施

11 大川　学内就職説明会に三九施設参加、海外研修成果報告会を開催、防災、防火、避難訓練等講習会を実施

11 国際トピックス　カンボジア国立医療技術学校の教員研修を実施、ベトナムフエ医科薬科大学と学術交流協定を締結、留学生が見た母国と日本の保健福祉事情

12-13 写真特集　学園祭　第三一回風花祭（大田原）、第一回成翔祭（成田）、第一二回潮風祭（小田原）、第一三回月華祭（大川）、第九回蓮翔祭（福岡）

14-16 施設インフォメーション　国福病院　市民公開講座「整形外科セミナー」を開催、「TAKE-ABI（〇一七）」を開催、熱海病院　大田原キャンパス看護学生熱海バスツアー開催、救急の日イベントに約五〇人参加、塩谷病院　本学学生によるハンドベルコンサートを開催、ウーク・ライフ・バランス推進　ワークショップに参加、第四回市民公開講座を開催、三田病院　国際医療機能評価JCIの模擬審査を受審、市川病院　第一回国際医療福祉大学市川病院医療連携協議会を開催、山王病院　山王病院外科部門の充実と消化器センター開設、高木病院　理学療法士が青年海外協力隊から帰国、金丸こども園「第一回うんどう会」開催

17 平成二九年度　年間成績優秀賞

17 海外保健福祉事情特集ページ

18-21 台湾／元培醫事科技大学、ベトナム／チョーライ病院、ホーチミン医科薬科大学病院、タイ／クリスチャン大学、ミャンマー／ヤンゴン看護大学、ヤンゴン科学技術大学、ラオス／国立健康科学大学、オーストラリア／TAFEゴールドコースト、韓国／建陽（コヒャン大学・仁済・インジェ）大学、マレーシア／マネジメント&科学大学（MSU）、フィリピン／フィリピン大学

22 講演会と説明会、健康講座一覧表

23 生涯学習のご案内

24 キャンパスプラス1　クラブ・サークル拝見　「うたよみ」合唱部（小田原）

※表紙撮影、福岡看護学部看護学科3年　鶴田裕子さん

第111回
大田原 キャンパスレポート

JRPSとちぎ主催の「散策の会」に参加

JRPS（日本網膜色素変性症協会）とちぎが主催した「散策の会」が八月二〇日に栃木県日光市で開催され、ボランティアとして参加した。

網膜色素変性症による視力・視野障害で日常生活に不自由を感じている方々に対し、日光だいや川公園などの散策の同行援護（外出のサポート）を行った。視機能療法学科では三年次に「同行援護従業者（一般課程）」の資格を取得するが、実際の利用者への実践的な同行援護は初めてだった。

当日は緊張したが、公園の散策や資料館見学などを利用者の方々と行い、有意義な時間を過ごすことができた。同行援護は、利用者を安全に誘導するだけでなく、景色や足元・頭上など周囲の状況を詳細に利用者に伝える必要がある。利用者と一日を過ごし、視覚障害者がどのようなことで不便を感じているのかを理解することができた。また、知識・技術だけでなく、正確な視覚情報を伝えるコミュニケーション能力の重要さを改めて実感することができた。

今後医療に従事する際に、今回の貴重な体験を活かし、視覚障害を有する方々に対し安全な同行援護をしていきたい。

（視機能療法学科　三年　竹村友樹）

言語聴覚センター見学ツアー

言語聴覚学科の魅力を社会に幅広く知ってもらいたい――と、言語聴覚士に興味を持つ高校生を対象に、八月二六日、本学附属の言語聴覚センターの見学ツアーを開催した。当センターは、ことば・聴覚・嚥下機能等に障害を有する方々への専門的な治療やリハビリテーションを行う専門施設。開設から二〇年、栃木県内のみならず他県からも多くの利用者がいる。

今回、定員を超える応募があり、その中から高校生とその保護者二四名が参加した。午前中は言語聴覚士の仕事内容やリハビリテーションについて学科長の畦上恭彦教授による講演があり、昼食をはさんで言語聴覚センターの見学を行った。昼食時は臨床実習や講義・学生生活に関する様々な疑問について、四年生が丁寧に応対した。参加者から「検査室や訓練室が整っている」などの設備面への感想や、「常に教わっている先生から実習指導を受けられると聞き、親として安心した」などの感想が聞かれた。

見学ツアーを実施したことで、言語聴覚センターはもちろんのこと、言語聴覚士の仕事や本学の魅力なども多く伝えることが出来た。今後も言語聴覚士をより知っていただけるような企画を開催していきたい。

（言語聴覚学科助手　佐藤友貴）

言語聴覚学科 ～国家試験対策夏季合宿～

言語聴覚学科の国家試験対策夏季合宿が八月九日、国際医療福祉大学那須セミナーハウスにて実施された。台風一過の猛暑日であったが、その暑さを吹き飛ばすように四年生約一〇〇名が国家試験過去問題四〇〇問四時間の模擬試験に挑戦した。

夏季休暇は前期に臨床実習を終え、国家試験に向け集中して勉強に取り組む時期である。四時間集中して試験に取り組む姿から、国家試験全員合格に向けての意気込みを強く感じることが出来た。

試験終了後は多くの教員も加わり、バーベキューで懇親を深めた。日頃の勉強や就職活動についての悩みや不安などを共有し、有意義な時間を過ごすことが出来た。漠然と感じている悩みをこのような場で相談したり、打ち明けたりすることで、周囲も同様の悩みを抱えていたことに気づいて安心する学生や、アドバイスしあう姿があり、国家試験に向けて学生同士が支えあう良い機会となった。

今年度も国家試験全員合格に向け、学生・教員一丸となりながら頑張っていきたい。

（言語聴覚学科助手　佐藤友貴）

第八回キッズスクールに一一九人参加

「第八回キッズスクール」（主催：国際医療福祉大学、大田原市、大田原市教育委員会）を大田原キャンパスで八月九日、開催した。楽しみながら医療福祉の世界を体験するこの企画に、小学生六〇名、中学生五九名が、それぞれ四つのグループに分かれて参加。小学生は医療福祉サービスを受ける側、中学生は医療福祉に従事する側から、さまざまな医療福祉の体験をした。

中学生コース新企画、「シミュレーション体験！　救急患者の体の中は？～発見から治療まで～」では、心肺蘇生、超音波検査、内視鏡外科手術トレーニング、糸結び・結紮（けっさつ）体験をし、救急場面から診断・治療の連続性を考えながら学修した。

最後に、大友邦学長から一人ひとりに「ヘルスケア・ジュニアリーダー認定証」が授与された。このイベントへの参加をきっかけに、多くの子どもたちが医療福祉への関心を高め、将来の進路を選定する際の一助となることを期待している。

（総務課　蜂巣翔子）

●内視鏡手術トレーナーを操作する参加者

●糸結び・結紮体験をする参加者

第七回幸齢者スクール

九月一三日、大田原キャンパスにて、「第七回幸齢者スクール」（主催：国際医療福祉大学、大田原市）を開催した。事前に抽選で選ばれた九五名が参加した。

津久井富雄市長と大友邦学長の挨拶の後、全員で「認知証予防アクティビティ『認知証予防―ちょっとした時間でできる脳のきらきら化』」と題し、看護学科　松本明美教授の手足を使う体操・クイズ・お手玉などを使ったゲームを楽しんだ。

続いて、体操後のカロリー消費チェック・平衡感覚測定・脳の柔軟体操・お口の健康チェック・自のチェック・骨密度測定・詐欺被害を防ぐ心構え・漢方体験など、各学科で工夫した企画を、二グループに分かれ四学科ずつを体験学習した。

閉講式では、大友学長から修了証を受け取り、閉会した。

（総務課　平塚里香）

●教員の指導に合わせて身体を動かす参加者たち

●参加者と「しりとり」をする作業療法学科の学生

大田原市赤い羽根共同募金 街頭募金に協力

医療福祉・マネジメント学科の地域福祉・行政領域で実習を行った学生たちは、毎年、実習指導の一環として、栃木県共同募金会大田原市支会が実施する赤い羽根共同募金の街頭募金活動に協力している。大田原市では一〇月中の毎土・日曜日に、市内の各店舗店頭において、中学生や市民ボランティアなどが参加して街頭募金活動を行っており、本学の学生は募金活動初日となる一〇月一日に参加した。募金会場の一つである東武大田原店では、大田原市の津久井富雄市長やイメージキャラクター、与一くんと共に募金を呼びかけ、多くの人から募金と共に温かい声をかけていただいた。

寄せられた募金は、栃木県全体でいったん集約されるが、一定の割合で各地域に配分され、各地域の地域福祉活動を進めるための貴重な民間財源となる。学生たちは実習で学んだこの共同募金の仕組みを、足を止めて募金してくれた市民の方に丁寧に説明しており、共同募金の意義や使いみちなど、実習での学びを地域の人々に還元することができたと考える。

（医療福祉・マネジメント学科准教授　大石剛史）

教育後援会会員のつどい 新井田副学長が記念講演

十月七日、大田原キャンパスにて、国際医療福祉大学大田原キャンパス教育後援会「第二十回会員のつどい」（教育後援会長：益子雅浩）を開催した。

冒頭、新井田孝裕副学長により記念講演が行われた。今回は「四〇代・五〇代に多い目の疾患と早期発見の秘訣」をテーマに、四〇代・五〇代から急増する目の疾患とその症状、定期健診の重要性について説明された。

講演後、全体会が行われ、初めに益子会長の挨拶があり、その中で、会員の皆様の温かいご支援への謝辞が述べられた。続いて、新井田副学長の挨拶の後、幹事の皆様のご紹介があり、締めくくりに、小林雅彦学生部長より本学の現況について報告があった。

全体会の終了後は、学科ごとに別れた学科別懇談会が行われ、各学科の担当教員による個別面談などが催された。

（学生課　和久井秀隆）

●活発な質疑応答が行われた新井田副学長の記念講演

第二一回 医療経営戦略セミナーを開催

一〇月二一日、医療福祉・マネジメント学科が「第二一回医療経営戦略セミナー」を開催した。今年度のセミナーでは、「人口減少社会に向けて医療・介護現場はどう変わるのか」をテーマに、国際医療福祉大学大学院の高橋泰教授が講演。栃木県・福島県・茨城県・千葉県の医療・福祉関連施設から二四名が参加し、在学生も合わせると約二〇〇名の聴講者が会場を埋め尽くした。

約六〇分間の講演を通じて、高橋教授から医療・介護現場の具体的な将来像が分かりやすく説明されると、聴講者は真剣な眼差しで耳を傾け、熱心にメモを取る姿も見られた。講演後の質疑応答では、複数の聴講者がそれぞれの立場から鋭い質問を提起し、会場中が白熱した。講演終了後の受講者アンケートでは、「今後の仕事に役に立つ」という意見が最も多く見られた。「講演内容を自施設に持ち帰って何ができるか検討したい」、「世の中にこの内容をもっと広めてほしい」といった声もあり、今回のセミナーの内容に対する満足度の高さがうかがわれた。

（医療福祉・マネジメント学科講師　酒井健）

●講演を熱心に聴講する参加者

第9回 成田 キャンパスレポート

「成田キャンパス模擬患者の会」が発足

成田キャンパスでは、医学部・成田看護学部・成田保健医療学部の学生や、地域の病院で働く医療スタッフのコミュニケーション技術を高め、心の通った医療が実践されることを目的として、九月に「成田キャンパス模擬患者の会」を発足させた。

ホームページや地元の回覧板などで参加者を募集したところ、九月一四日の第一回講習会には、日頃から医療に関心を持たれている五九人の参加のもと、模擬患者の活動の概要について説明した。一〇月五日の第二回講習会では演技指導が始まり、四七人の参加者が八つのグループに分かれて、シナリオに沿った演技を体験した。

今年度の講習会は合計八回を予定しており、来年一月には、医学部の授業において、模擬患者としての活動が始まる。今年度の募集は締め切ったが、ともに医療の質の向上をめざすべく、来年度も引き続き、多くの方々の参加を募っていく予定である。

（広報　金井雅之）

●シナリオに目を通す参加者と、指導する石川和信教授（中央）

第一〇回 アジア環太平洋音声言語聴覚学会学術大会開催

第一〇回アジア環太平洋音声言語聴覚学会学術大会が九月一七～一九日、成田キャンパスにて成田保健医療学部 言語聴覚学科長の城間将江教授が大会長となり、開催された。

本大会は、言語聴覚療法に関する本邦初の国際学会であり、一七か国から四七四人が参加した。藤田郁代・大学院言語聴覚分野責任者による主賓講演をはじめとし、基調講演、教育セミナー、シンポジウムなどをとおして、本学を舞台に世界の最先端の話題に関する熱い議論が展開された。

一般演題では口述八一演題、ポスター一七四演題の発表があり、本学教職員や大学院生も多くの発表を行い、本学グループの言語聴覚障害学に関する水準の高さを国内外にアピールする絶好の機会となった。また、キャンパスでの開催ならでは企画として、本学科の学生が「着物で記念撮影」「折り紙」「書道」など日本文化を紹介するコーナーを設けて外国人をおもてなしした。

二日目の夜、成田山書道美術館での夕食会には小泉一成 成田市長が駆けつけ、国際学会が成田市で開催されたことに対する歓迎のことばを述べられると、会場から大きな拍手が起こった。

（言語聴覚学科　教授　内田信也）

●開会のあいさつをする城間大会長

栄町まちづくり大学に理学療法学科の教員と学生が参加

印旛郡栄町主催の「栄町まちづくり大学介護学部」が八月二日、栄町のふれあいプラザさかえで開催され、理学療法学科の櫻井陽子助教と竹内真太助教が講義を行い、学生がボランティアとして参加した。「出会い」と「学び」を通して「元気な栄町」を支える人づくりを目的とした事業で、今回は「起きる、座るを安全に　寝返り、起き上がり、座位、車いすへ」をテーマに、実技指導を交えた講義を行った。

学生は事前に講義内容の指導を受け、練習を重ねた。参加者の多くは日頃、介助に携わっており、介助方法の基本原則、寝返り動作・起き上がり動作・乗り移り動作の介助方法、車椅子乗車時の姿勢の直し方、車椅子の操作方法について、実技の実践中から質問や意見が飛び交った。「介助される方の重心を高くして身体を小さくすると、介助する時の力が少なくてすむ」といった基本原則の重要性を実感し、すぐに使える知識として身についたのではないかと思う。初めは緊張気味だった学生も、最後は地域の方と笑顔で会話をする様子がみられ、有益な機会になったと感じた。

（理学療法学科　助教　竹内真太）

●実技を観察してアドバイスや補助を行う学生たち

医学部一年生が応急手当普及員資格を取得

九月二八日、医学部の一期生のうち、心肺蘇生法（BLS）の普及に興味を持った二七名が、成田市消防本部が主催する講習を修了し、応急手当普及員の資格を取得した。講習では背景の異なる人々にどのように効果的な指導が行えるか、成人教育技法というものを学び、学生たちも指導する難しさと楽しさを体験した。

この資格は本学や成田市、近隣市町村等で開催されるBLS講習会で受講生に指導ができる資格で、今後学生たちは、地元消防本部などとも連携し、これらのBLS講習会にボランティアの講師として参加予定である。

医学部では現在、献体活動の広報などを近隣市町村に対して行っているが、その際にもBLS講習会の開催を希望されることがある。今後学生のボランティア活動が地域の人々に認知され、本学の取組みが成田地区でもより広くご理解いただけることを願っている。

（医学部　准教授　川岸久太郎）

●応急手当普及員の資格を取得した学生たち

第44回 小田原 キャンパスレポート

ときめき国際学校

小田原保健医療学部は今年も「ときめき国際学校」の受け入れを行った。

小田原市とオーストラリアのノーザンビーチ市が友好都市の関係にあることから、相互交流事業として、毎年「ときめき国際学校」を行っており、そのプログラムのひとつとして、小田原キャンパスでの体験学習が企画されている。

今年は九月二九日に二〇名のノーザンビーチ市の中高校生が体験学習のため本学を訪れた。本学で準備した体験学習は「高齢者体験・妊婦体験」「ストレッチ」「習字を用いたリハビリ」。本学の学生にとっては、生の英語に触れる機会で、普段の英語の授業の成果を確認する場になった。

ノーザンビーチ市の中高校生は、初めて体験するものも多く、例えば、高齢者体験を通して、動きにくさや見えにくさを体験したところ、驚いていた様子だった。また、本学の学生たちと英語で交流し、短い時間の中ながら早々に打ち解けていたのが印象的だった。

（総務課　高久晃）

日本グローバル教育学会全国大会開催

九月二日、小田原キャンパス本校舎にて、「第二五回日本グローバル教育学会全国大会」（大会長・小田原保健医療学部講師、寺田佳孝）を開催した。本学会では開発・環境・平和・宗教・異文化理解等のグローバル課題に取り組むべく、グローバル教育の理論的、実証的研究を進めている。

今大会では、合計一九の報告がなされるとともに、「教科の学習とグローバル教育」というテーマでシンポジウムが開催された。同シンポジウムでは、初等教育、中等教育そして大学でのグローバル化を踏まえた学習について、四名の演者から発表がなされた。「高等教育におけるグローバル学習」に関しては、小田原保健医療学部の黒澤和生学部長が、本学の歴史と理念、国際交流に係るカリキュラムや留学生の受け入れ等の教育実践について発表した。

黒澤学部長、理学療法学科の先生方、そして小田原キャンパス事務の皆様のご助力で大会が開催できましたことを深くお礼申し上げます。

（医学一般教育　寺田佳孝）

第18回 大学院 キャンパスレポート

大学院オープンキャンパスを開催

九月九日（土）、東京青山、大田原、小田原、福岡の各キャンパスで大学院オープンキャンパスを開催した。参加者は二〇〇名を超え、熱気を帯びたオープンキャンパスとなった。

全体説明会では、三浦総一郎大学院長の挨拶に始まり、大学院の特徴と学生生活、入試の説明を行った。参加者は大学院の概要はもちろん、来年四月に開設を控える東京赤坂キャンパスの説明など、今後の展望にも熱心に耳を傾けていた。

全体説明に続いて実施した分野・専攻ごとの進学相談会では、実際に指導に当たっている教員から、個別相談や模擬授業、グループでの集団説明などを通じて、分野の特徴やカリキュラムが分かりやすく説明された。また、次年度から開設される予定の「医学研究科」をはじめとする新研究科、新分野でも説明会を実施した。参加者は不安や疑問を解消し、進学に向け気持ちを新たにしていた。

大学院では平成三〇年一月一四日（日）にも、東京青山キャンパスで全分野を対象にした進学説明会を開催するほか、各分野・専攻単位でも説明会や授業見学会を実施している。大学院進学を検討されている方は、ホームページの情報をチェックしてください。（大学院運営室　近納一重）

●全体説明の様子

文部科学省　がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン

一〇月二二日（日）、東京青山キャンパスにて「ライフステージに応じたがん診療～がん患者ケアに多職種でどう向き合うか～」をテーマに、多職種協働市民公開シンポジウムを開催した。この取り組みは、本年六月に採択された文部科学省『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』事業の一環として開催するもので、川崎市立井田病院の西智弘先生や聖路加国際病院の久野美智子先生ら、さまざまな職種のエキスパートから講演をいただき、一般の方や大学院生等の参加者とのディスカッションを行った。

一二月一〇日（日）には、東京青山キャンパスにて「ゲノム情報はがん治療にどのように役立つのか？」をテーマに、がんプロフェッショナル養成のための教育ワークショップを開催する。大学院ホームページより、プログラム・申込方法等をご確認のうえ、ご参加ください。

●シンポジウム講師　久野美智子先生（聖路加国際病院）

第34回 福岡 キャンパスレポート

保護者懇談会を開催

九月九日、全学生の保護者を対象に福岡看護学部保護者懇談会を開催し、八六組九五名の保護者が参加した。

懇談会は、保護者の皆さんに直接教員との面談等を通じて学生の学修面、生活面、健康面などについて現状を把握していただき、今後の各家庭での指導に役立てていただこうというものである。

午前中の全体会では、大池美也子学部長の挨拶に続いて、教務・学生・就職・国家試験対策などの各委員長より現況報告を行い、午後からは希望者を対象に個別面談を行った。担当教員の説明に耳を傾け、熱心に質問をされる保護者の様子が見受けられた。

保護者からは「先生との懇談で子供の様子が聞くことができて安心した」「実習や国家試験対策、就職などのことがよくわかりました」「八月の国際交流、海外研修では大変貴重な経験をする事ができ、本人はもちろん、家族も喜んでいる。大学でこの機会がなかったら、自ら海外へ出かけることは考えもしなかったと思う。本当にこの大学でよかったと親子共に思っている」などのコメントをいただいた。今後、保護者のニーズを的確にとらえながら保護者懇談会を充実させていきたい。

（学生係　李晶萍）

合同教員研修会を実施

九月一四日、平成二九年度第一回合同教員研修会を開催した。今年は福岡看護学部が担当となり、久留米大学の安永悟先生をお迎えして「協同学習に基づくアクティブラーニング」をテーマに講演していただいた。

前年度のクリティカルシンキングに続いて、学生の主体的な学修方法を学ぶことに取り組んだ。安永先生の講演では、三人が一つのグループとなり、協同学習の基本技法を学んだ。協同学習は単なるグループ学習ではなく、協同による自他貢献の実感を涵養するものであり、本学にも十分取り入れることのできるものであると感じた。研修後のアンケートでは「是非講義に取り入れたい」「グループで話し合うことで活性化できた」などの肯定的意見が多く、福岡看護学部での取り組みは講師の選定も含め全体的に適切であったと考えている。

（看護学科　教授　白石裕子）

●安永先生の講演を熱心に聴く教員たち

第48回 大川 キャンパスレポート

学内就職説明会に一三九施設参加

大川キャンパス講堂で四年生を対象に九月一一日に理学療法学科と言語聴覚学科、一〇月一二日に作業療法学科の学内就職説明会を開催した。

理学療法学科と言語聴覚学科対象の説明会では六九施設、作業療法学科対象では七〇施設と、合計一三九施設と多数の病院や企業が参加した。

今回は福岡県を中心とした九州各県の施設だけでなく、関東・関西地区からも多くの人事担当者が参加され、本学の学生に対する期待の高さが窺われた。学生たちは関心を持った施設の説明を熱心に聞き入っていた。

説明会で新しい施設との接点を持つことで、今後の就職活動の参考となったようだ。

就職活動は例年、学内就職説明会をきっかけに本格的にスタートとしていくが、すべての学生へ朗報がもたらされる事を心より願っている。

（学生・国際係　石橋武彦）

●真剣に話を聞く学生たち

海外研修成果報告会を開催

二〇一七年度海外研修の成果報告会が九月一九日、大川キャンパス講堂で開催された。今年度の大川キャンパスの海外研修は、新たにインドネシア、マレーシア、カンボジア、フィリピンが渡航先として加わり、一四の研修国、一九の研修先に二四六名の学生が参加して実施された。

報告会は海外研修に参加した学生に加えて一年生が全員参加した。研修班ごとにその成果をパワーポイントを使用して発表し、引率教員が補足説明をするという形で行われた。日本では決して触れることのできない現地医療の実情や異文化交流の生き生きとした様子が報告され、世界各地から持ち帰った学びが共有された。次年度に研修を控える一年生にとっては、研修先を選択するための情報収集の場ともなり、有意義な報告会となった。

（学生・国際係　杉原活郎）

防災、防火、避難訓練等講習会を実施

九月一九日、一年生を対象に防災・防火・避難訓練等講習会が地元大川市消防本部の協力を得て実施された。

出火場所を二号館二〇九教室、避難場所をグラウンドとして消火・避難訓練が行われた。その後体育館でAED等を用い心肺蘇生法を中心とした応急手当の実技指導が行われた。

消防局員の方々の熱心な指導もあり、学生は日ごろの防火防災意識を高め、応急手当の重要性を再認識するよい機会となったようだ。

（学生・国際係　杉原活郎）

カンボジア国立医療技術学校の教員研修を実施

本学の協定校であるカンボジア国立保健科学大学の関連校でもある国立医療技術学校からタン・ギ副校長（放射線医）、放射線科教員でカンボジア放射線技師会会長でもあるポー・ソフェク先生ら合計四名の教員が本学での研修の目的で来日した。

一行は十月二日に大田原キャンパスに来校し、新井田孝裕副学長の歓迎のご挨拶の後、研修がスタート、午後には国際医療福祉大学病院へ移動し、大和田倫孝病院長より病院概要説明を受け、病院見学をした。

一〇月二～五日は国立医療技術学校の来日の主目的である「デジタル放射線技術の講師育成」の一環として、放射線・情報科学科にて内藏啓幸学科長をはじめ同学科の先生方のご協力のもとカリキュラムや指導方法等を学んだ。一〇月五日の午後に東京へ移動し、三田病院と山王病院の見学をし、本研修を終了した。

今後もカンボジアにおける放射線技師育成の協力等を通して、同校との交流が続いていくことが期待される。

（大田原キャンパス国際室　藤原志保）

●放射線・情報科学科の教員と記念撮影

●大和田病院長による病院概要説明

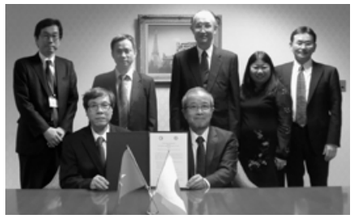
ベトナム フエ医科薬科大学と学術交流協定を締結

一一月一日、ベトナムのフエ医科薬科大学のカオ・ゴック・タイン学長＝附属病院長、グエン・サイン・トゥン大学協議会会長＝附属病院副院長、グエン・ティ・アイン・フォン科学技術・国際連携室副室長が国際医療福祉大学を訪問し、大友邦学長、松谷有希雄副学長の出席のもと、本学と学術交流協定を締結した。

フエ医科薬科大学は、医学部開設から始まった大学で、この二〇年間に看護学部、公衆衛生学部等が設置され現在の医療系総合大学となっている。ハノイ医科大学、ホーチミン市医科薬科大学と並ぶベトナム三大医科大学のひとつとして、人口二五〇〇万人が居住するベトナム中部および高地地域の医療保健科学を先導している。

すでにベトナム保健省の仲介により同大学医学部生が本学の医学部奨学生として入学しており、今後、同大学との学生や教員の相互派遣などの交流を通して、友好関係が更に発展、促進されていくことが期待されている。

（東京事務所　国際医療部長　小川卓也）


●前列左よりタイン学長、大友学長

留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情 第8回 ★

ドー　ゴック　トゥング
Do Ngoc Tungさん
ベトナム出身
理学療法士　修士課程
保健医療学専攻　作業療法学分野

ホーチミン医科薬科大学を卒業し、同大学附属病院で理学療法士として働いていましたが、二〇一五年九月に短期研修生として国際医療福祉大学に派遣されました。

そのとき、作業療法士の教育現場に触れ、ベトナムには専門職のいない作業療法の分野に大変興味を持ち、自分も作業療法の知識を得たいと思い、IUHW奨学生として本学に入学しました。勉強は大変な部分もありますが、国際交流親善パーティーや遠足などの行事、レクレーションも多く、楽しく学生生活を送っています。

現在、谷口敬道先生、小賀野操先生のご指導のもと、「作業療法士は脳卒中患者の個別作業療法時間をどう使っているか：臨床実践における作業療法内容とそれに使われる時間」をテーマに研究を進めています。

これまで、ベトナムには作業療法士の養成教育機関が存在せず、病院ではJICAや国際NGOなどから派遣された作業療法士の方に指導を受けていましたが、今年になって初めて養成コースが設けられました。

ホーチミン市のような大都市ではリハビリテーション科を有している総合病院が複数存在していますが、地方都市ではその数が激減します。伝統医療が国民の生活に根ざしているベトナムでは、リハビリを含む西洋医学よりも伝統医学による治療を好む場合も多く、特に農村部では、退院後は伝統医学による治療しか選択肢がないのが現状です。

日本では病院や施設を中心に様々な医療・介護サービスを受けられることや、自助具や福祉用具の多さに驚かされました。ベトナムでは車イス用のスロープなどは少なく、バリアフリー化は大幅に遅れています。道路はデコボコで、点字ブロックもありませんので、視覚障害者は付添者がいないと外出できません。

作業療法は、身体に障害がある人、精神に障害がある人、子ども、高齢者などのリハビリテーションです。修了後はベトナムに戻り、病院での実践はもとより、専門職をめざす方たちへの指導も行い、リハビリテーションの普及・発展に関わっていければと考えています。

●国際交流パーティーの模様

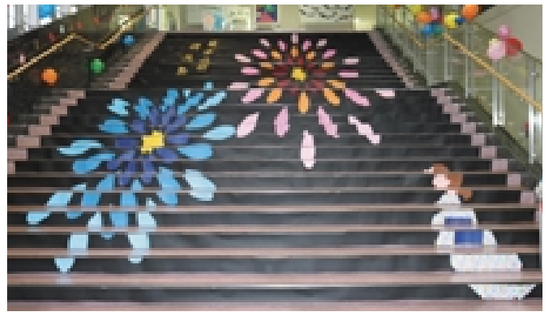
IUHW 5 Campuses School Festival

Odawara Campus

第12回 潮風祭 2017 10／7～8

Message
～人から人へ 伝える言葉・笑顔・想い～

●ダンスサークルawakeの楽しいパフォーマンス



●ボランティアで活躍 うたよみサークルの発表

●作業療法器具の紹介ガイド

Okawa Campus

第13回 月華祭 2017 10／7～8

才華爛発

●国福グランプリ

●森田学科長と学生たち

●恒例の灯明・今年は大川昇開橋を表現

Fukuoka Campus

第9回 蓮翔祭 2017 10／7

Infinity Challenge
無限の挑戦

●メインステージで記念撮影

●焼き鳥・フォーの屋台

Ohtawara Campus

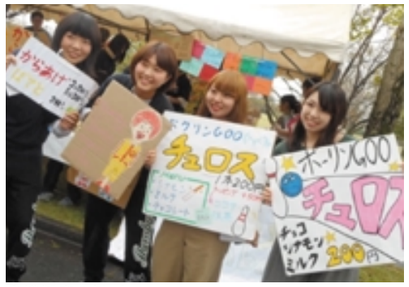
第22回 風花祭 2017 10／7～8

結～僕らは大田原に恋をする～

●学祭実行委員

●茶道部　お茶の誘い

●夜のライブ


●模擬店の勧誘

Narita Campus

第2回 成翔祭 2017 10／7～8

Next Stage
頁をめくる、
とっておきの秋風

●屋外ステージのトリをつとめたquintette

●ニューヨーク州のバッファローウィングの味を再現（有志団体）

●3曲を披露したコーラス部の合唱（講義室）

●メキシカンフーズのナチョスとケサディア（卓球部）

●国際医療福祉大学病院

●国際医療福祉大学熱海病院

附属病院
国際医療福祉大学病院

八月一九日(土)市民公開講座「整形外科セミナー」を開催

国際医療福祉大学病院は、八月一九日（土）に市民公開講座「整形外科セミナー」を開催した。

整形外科セミナーでは、当院整形外科部長の高橋謙治教授が『元気に歩き続けるために～ひざ・股関節のお話～』をテーマに、立つ、歩く、しゃがむなど日常生活に欠かせない動作でひざ、股関節がとても大切な役目を果たしていることについて詳しく説明し、病気の種類と予防から最新の治療までわかりやすく解説した。

続いて、国際医療福祉大学の卒業生で理学療法士の大藤範之先生が、簡単な運動による『膝・股関節に良い歩きとトレーニング』を来場者に実践指導した。セミナーには三二一名もの多くの市民の皆様が来場され、大変盛況な公開講座となった。

（総務企画課　平野幸宏）

●公開講座にご来場いただいた皆様

九月一七日(日)「TAKE！ABI 二〇一七」を開催

「TAKE！ABI」とは、血管病の疾患、予防、治療法についての知識普及、生活習慣の見直しなどを提案させていただくイベントで、毎年実施している。

当日は、当院血管外科部長の村上厚文教授が『動脈硬化性病変に対する最新の治療―大動脈治療から指先の血管治療まで―』をテーマに市民公開講座を開催し、命に係わる大動脈瘤の破裂を予防する最新の低侵襲治療について講演が行われたほか、無料でABI検査を実施した。

ABI検査とは、足と腕の血圧を同時に測定し、動脈のつまり具合や血管のしなやかさを測り、血管の健康状態をチェックするもので、今回二三一名の方がこれに参加された。

参加者は、公開講座や検査測定の他にも、足のむくみを改善するマッサージ器具のデモンストレーションや健康体操なども体験することができ、大変有意義なイベントであった。

（総務企画課　平野幸宏）

●「TAKE!ABI」ご講演中の村上教授と参加者の皆様

附属病院
国際医療福祉大学熱海病院

大田原キャンパス看護学生熱海バスツアー開催

八月二二日と二三日の二日間にわたり、院内で「大田原キャンパス看護学科　熱海バスツアー」を開催した。このバスツアーは、大田原キャンパス看護学科三年生を対象に、実習等で訪れることのなかった附属病院についても関心を持ってもらい、病院の魅力を知ってもらうために毎年開催している。

今年は二一名の学生が訪れ、海を眺めながらの昼食会に続き、ユニフォームに着替えて様々な部署へ行き、実際に働いている看護師と共に職場体験を行った。また、夜の懇親会では、大田原キャンパスの卒業生も交えて、実際の仕事の様子や熱海での生活、学生時代の思い出話などで話が弾み、楽しいひとときを過ごした。

翌日には、横山直司看護部長より熱海病院の概要と教育体制について説明があり、学生達は今後の自分の進路を見据えて、真剣な表情で耳を傾けていた。

バスツアーをきっかけに当院への就職を希望する学生も多くなっており、来年も一人でも多くの学生に熱海病院の良さを知っていただきたいと思っている。

（総務課　伊藤銘子）

●看護師と共に職場体験を行う学生ら

救急の日イベントに約五〇人参加

九月六日、院内で「救急の日イベント」を開催した。このイベントは熱海市が救急医療に関する情報の発信、適正救急医療の利用、救急隊の活動をPRすることを目的に平成二五年度より開催している。

イベントには、約五〇名が参加し、救急医療講演会と救命救急講習会を通して、日々の健康や安全安心を支える救命医療に理解を深めた。

講習会では当院副院長の重政朝彦教授から「心臓病とうまくつきあっていくには」との演題で狭心症、心筋梗塞症の一次、二次予防について解説、「少しでも何か違和感があれば病院へ」と日常からの早めの予防がいかに大事かの説明がなされた。また救命救急講習会では熱海消防の指導のもと、ダミー人形を使い心肺蘇生法を、AEDの使い方も併せて繰り返し実習した。

最後に熱海消防救急隊の方から少しでも熱海市の救急医療の現状をご理解いただければとの言葉で会を閉めくくった。

（総務課　鈴木秀明）

●ダミー人形を使い心肺蘇生法に取り組む参加者ら

●国際医療福祉大学塩谷病院

●国際医療福祉大学三田病院

附属病院
国際医療福祉大学塩谷病院

本学学生によるハンドベルコンサートを開催

九月一九日、国際医療福祉大学塩谷病院一階総合受付前ロビーにて、当院CS委員会（委員長：上田昌弘眼科部長）主催のハンドベルコンサートを開催した。

国際医療福祉大学ハンドベル部の学生六名が、童謡やアニメ映画のテーマ曲など様々なジャンルの音楽を演奏し、診療受付や支払いで待たれている外来患者様だけでなく、病棟の入院患者様やお見舞いに来られた方にも演奏を楽しんでいただいた。

六人の学生は、一人でいくつのも音階を奏でるために何種類ものハンドベルを順番よく鳴らし、素敵なハーモニーを作り上げてくれた。エンディング曲となった「ふるさと」では、患者さまも一緒に歌っていただき、院内が和やかな雰囲気に包まれて楽しいひと時を過ごすことができた。

（総務人事課　川上二郎）

ワーク・ライフ・バランス推進ワークショップに参加

九月七、八日の二日間、宇都宮市にあるとちぎ健康の森において、栃木県看護協会が主催した「看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ」に参加した。

塩谷病院の参加は今年で二年目になり、主体となっている看護部の他、リハビリスタッフや事務職員も参加して、一年間の活動を振り返り、二年目の活動目標を発表した。

多くの企業や事業所において職員の働き方を見直す動きが活発になってきていることから、塩谷病院でも地域から信頼される病院、笑顔で働きやすい病院を目指すための取り組みを、職員一丸となって行っている。具体的には、ワーク・ライフ・バランスを院内全体に浸透させることへの取り組みとして、毎月推進会議を開催して活動を報告している職場環境を改善することが、職員のやりがい、ひいては離職防止につながることから、この活動をさらに盛り上げていきたい。

（総務人事課　川上二郎）

第四回市民公開講座を開催

九月九日、矢板市文化会館小ホールにて、今年度の第四回市民公開講座を開催し、総合診療科部長の北嘉昭医師による「その症状　何科にかかる？～テレビだけではわからない総合診療医の仕事～」をテーマに講演を行った。

総合診療とは、単に症状だけでなく、病歴、心理的社会的問題、生活習慣などのさまざまな情報に基づいて、専門分野に関係なく迅速かつ正確な診断・治療を行う診療のことを指す。北医師は「患者さまからの電話や簡単な問診だけではわからないことが多いが、それらを正確に診断していくのが、数多くの経験を通して常に一瞬の判断ができる訓練を積んでいる総合診療医」と、時折ジョークを交えながら来場者にわかりやすく総合診療についてお話しいただいた。

（総務人事課　川上二郎）

附属病院
国際医療福祉大学三田病院

国際医療機能評価JCIの模擬審査を受審

一〇月一六日から二〇日にかけて、アメリカの国際医療機能評価JCI（Joint Commission International）本部よりコンサルタント三名を迎え、JCIの模擬審査を受審した。当院は二〇一五年一二月にJCIの認証を取得しているが、認証継続には三年毎の更新審査が必要となるため、二〇一八年末の更新を見据えての模擬審査である。

五日間の模擬審査では、医療の質と患者の安全に主眼を置いたJCIの一一八項目にわたる基準への合致を検証するため、医師・看護師・施設担当の各コンサルタントが院内の様々な施設を視察。業務を担当する職員に直接インタビューを行ったり、規則やマニュアルなどの文書を確認したりした。

コンサルタントからは当院の医療の質の高さについて評価をいただくと同時に、更新に向けて数々の指摘も受けた。これらの指摘事項を一つ一つ改善し、更新審査の合格に向けて引き続き全職員一丸となって取り組んでいきたい。

（国際室　長谷川典昭）

施設インフォメーション

●国際医療福祉大学市川病院　●山王病院　●高木病院　●金丸こども園

附属病院　国際医療福祉大学市川病院

第一回国際医療福祉大学市川病院医療連携協議会を開催

九月二八日、市川グランドホテルにて「第一回国際医療福祉大学市川病院　医療連携協議会」を開催した。九月一日より化学療法研究所附属病院から国際医療福祉大学市川病院となった経緯もあり、市川市と松戸市を中心に昨年を大幅に上回る五二〇の医療機関から総勢一〇七名の方々にご出席をいただいた。

まず、当院の佐伯直勝病院長と大友邦国際医療福祉大学学長から開会のご挨拶。引き続き、馬島徹副院長が司会を務めた第一部では、角田亘副院長・リハビリテーション科部長が「最新の脳卒中リハビリテーション～経頭蓋磁気刺激治療とボツリヌス毒素治療～」について、板野理副院長・外科統括部長が「腹腔鏡下肝切除―今後の展望―」について、それぞれ講演された。

目黒知己循環器内科部長が司会を務めた第二部の情報交換会では、地域医療連携室と各診療科のご紹介を行った。日頃から医療連携でお世話になっている医療機関の先生方や医療職の方々と当院の医師や看護師、地域医療連携室職員が直にお会いすることができ、活発な意見交換を行うことができた。

今後もさらに地域医療の連携強化を図っていくうえで、非常に有意義な会となった。

（地域医療連携室　田中弘一郎）

●あいにくの雨天でしたが、多くの方にご来場いただいた

臨床医学研究センター　山王病院

山王病院外科部門の充実と消化器センター開設

山王病院では今年四月、前東京大学腫瘍外科の石原聡一郎外科部長・医学部教授と、前日本医科大学付属病院第二外科・乳腺外科准教授の山下浩二乳腺外科部長・医学部教授が着任し、外科部門の充実をはかった。

当院では「ダ・ヴィンチ」などを使用した各種内視鏡手術や、「ナノナイフ」による膵臓がん・肝臓がん手術など、低侵襲手術を積極的に行ってきたが、今後さらに、さまざまな悪性・良性腫瘍に対して、各分野で高い実績を持つ医師による手術を行える体制を整えた。

七月には、石原聡一郎外科部長がセンター長を務める「消化器センター」を新たに開設し、消化器内科と一般・消化器外科、大腸肛門外科を統合した。消化器センターでは、消化器疾患全般について、良性疾患から悪性疾患、急性疾患や慢性疾患など幅広い疾患を対象に診療している。また、経験豊富な内科・外科の専門医を多数配置し、疾病予防から検査、診断、治療まで一貫した診療を行うことで、センター方式の強みである、内科医・外科医の連携を生かした、よりシームレスで総合的な医療をめざしている。

（総務課　山本悦子）

●消化器センター腹腔鏡手術

臨床医学研究センター　高木病院

理学療法士が青年海外協力隊から帰国　天皇皇后両陛下とご懇談の栄を賜る

JICA（国際協力機構）の青年海外協力隊員としてヨルダンに派遣されていた鬼丸武士理学療法士（国際医療福祉大学福岡保健医療学部卒）が二年間の活動を終えて帰国した。同時期に派遣されていた一〇〇〇名の代表八人に選ばれ、九月十四日に皇居で天皇皇后両陛下とご懇談の栄を賜った。

鬼丸さんの派遣先はヨルダン北部のマフラック地域。障害児を対象としたリハビリ訓練センターで理学療法の保護者向けガイドブックの作成や、現地リハビリスタッフへの技術指導を行った。特別支援学校部門の子どもたちが卒業後に就労できずに困っている現状を知り、就労支援プログラムも立ち上げた。

「両陛下からは現地での活動写真について多くの質問をいただきました。興味深く私の活動報告を聞いてくださり、大変光栄な機会となりました」（鬼丸さん）

青年海外協力隊員としては、柳川リハビリテーション病院の近行愛理学療法士も東ティモールから帰国した。

（九州地区広報室　帆足リエ）

●就労支援プログラムを行う鬼丸さん

●東ティモールから帰国した近行さん

国際医療福祉大学　金丸こども園

「第一回うんどうかい」開催

今年四月に開園した金丸こども園では、九月三〇日に運動会を開催した。空高く秋晴れの絶好の運動会日和。広大な園庭には、開会を告げる園児のメッセージが高らかに響いた。

プログラムは、四二名の在籍園児全員の体操とかけっこ、年少児がアンパンマンに扮しバイキンマンを倒してゴールをめざす親子競技と続き、年中・年長児によるソーラン節のリズムに乗った「よっちょれ」では鳴子を使った決めポーズがかっこよく決まり、声援を送る保護者席を大いに沸かせた。

また、後半の年少児の親子リズム体操では、なす療育園の二人のお友達も加わり、年中・年長児のリレーでは元気あふれる園児たちからアンコールの声が。これには先生方もびっくり。急遽二回目のリレーとなったが、みんなキラキラした笑顔で元気に走り切った。

国際医療福祉大学大田原キャンパスのダンス部や学生ボランティアの応援を受けた運動会は、親子でメッセージを載せた風船を空に放ってフィナーレを迎え、たくさんの感動と入園後六か月を経た園児一人ひとりの成長の喜びを私たちに与えてくれた。

（金丸こども園　事務室）

平成二九年度　年間成績優秀賞

平成二九年度　年間成績優秀賞

平成二九年度年間成績優秀賞受賞者が決定した。表彰式は各キャンパスで実施され、受賞者には副賞として、年間授業料の最大五〇％に相当する額の奨学金が授与される。

（大田原キャンパス学生課　松本典子）

●大田原キャンパス 年間成績優秀賞表彰式

大田原キャンパス

学科	学年	氏名
看護学科	2	齋藤　梨沙
	3	山中　結花
	4	小島　咲春
理学療法学科	2	丸山　風翔
	3	二瓶　好人
	4	山中　大樹
作業療法学科	2	村上　瑞季
	3	山口　和香
	4	細井　志織
言語聴覚学科	2	斎藤　郁美
	3	佐藤　美奈子
	4	藤本　菜美
視機能療法学科	2	熊井　理子
	3	間中　理紗
	4	能登山　桃子
放射線・情報科学科	2	本間　大晴
	3	菊地　貴生
	4	山口　菜々江
医療福祉・マネジメント学科	2	福澤　正希
	3	原　千夏
	4	井上　亜佳音
薬学科	2	安嶋　美紀
	3	髙橋　健人
	4	伴野　友香
	5	佐藤　奈実
	6	湯山　円晴

成田キャンパス

学科	学年	氏名
看護学科	2	武﨑　七彩
理学療法学科	2	秋元　恵理
作業療法学科	2	佐野　陽南子
言語聴覚学科	2	内山　莉緒
医学検査学科	2	千葉　清徳

小田原キャンパス

学科	学年	氏名
看護学科	2	大貫　菜央
	3	中本　優香
	4	小林　ゆい
理学療法学科	2	早川　佳那子
	3	神野　元希
	4	西本　早織
作業療法学科	2	宮下　咲雪
	3	大渕　詩歩
	4	赤塚　みなみ

福岡キャンパス

学科	学年	氏名
看護学科	2	眞田　莉瑚
	3	野村　綾音
	4	白井　杏奈

大川キャンパス

学科	学年	氏名
理学療法学科	2	長田　響生
	3	今田　州
	4	高橋　昂大
作業療法学科	2	原　梨紗
	3	堀之内　奈緒
	4	深見　優樹
言語聴覚学科	2	神村　圭悟
	3	石場　ひばり
	4	三野　倭歩
医学検査学科	2	岩本　礼奈
	3	塚本　のはら
	4	上田　彩咲美

●小田原キャンパス 年間成績優秀賞表彰式

●成田キャンパス 年間成績優秀賞表彰式

●大川キャンパス 年間成績優秀賞表彰式

●福岡キャンパス 年間成績優秀賞表彰式

海外保健福祉事情

本学は基本理念の一つとして「国際的センスを備え、いかなる国の人々とも伸び伸びと協働できる真の国際人を育成すること」を掲げている。この理念を具現化するものとして、今年も総合教育科目である「海外保健福祉事情」が、夏休み期間中に約二週間の日程で実施された。今年度から成田キャンパスも加わり、参加学生数は昨年度の倍以上になる七〇六名に上り、引率教員五三名を含め、総勢七五九名が派遣された。研修国はカンボジア、マレーシア、フィリピン、インドネシアの新規四カ国を含む計一四カ国二五グループに拡大し、それぞれが現地の医療現場や関連施設を訪れ、文化体験も行った。今号では九カ国一〇グループのレポートを紹介する。

（大田原キャンパス国際室　田所清美）

台湾　元培醫事科技大学

学生間の国際交流の継続に期待

福岡保健医療学部　医学検査学科
教授　佐藤信也

四キャンパス七学科、合計四二名の学生が八月七日から一一日間の台湾研修を行った。大学舎では、中国語講座、医療事情、社会文化などの講義や中国独楽体験などの文化交流を行った。病院見学では、一二〇〇床を超える民間病院、国立台湾大学附属分院、ヘルスプロモーションに特化した病院など、それぞれの特色ある施設を見学できた。何よりも全てにおいて八名のボランティア学生の協力に感謝しきれない。是非とも今回の研修で途切れることなく、交流を続け再会を願いたい。

●授業後、ボランティア学生らと（元培醫事科技大学教室）

常にサポートの優しさも学ぶ

福岡保健医療学部　医学検査学科
二年　上地ひかり

私たちは台湾の医療だけでなく台湾の人の優しさを知ることが出来た。研修先の元培醫事科技大學のボランティア学生や先生方は、学内でも観光の際も私たちが楽しめるように常にサポートしてくださった。病院訪問では、リハビリや検査室の様子などを見学させていただき、説明がとても分かりやすかった。この優しさは台湾だから学べたことだと思う。

今回の研修はとても充実していて良い経験になった。今回学んだことを今後の学習に活かしていきたい。

●大千総合病院での採血室の様子

ベトナム　チョーライ病院・ホーチミン医科薬科大学病院

チョーライ病院とホーチミン医科薬科大学病院で研修

福岡保健医療学部　作業療法学科
教授　濱本邦洋

今年もHoChiMinhに来た。バスはおびただしい数のバイクを避け、まるでクジラが小魚の群れを押しのける様にノロノロと走る。バイクとクラクションの騒音の中ホテルに向かう道すがら、香菜と泥臭さと排気ガスの混ざった匂いを嗅ぎ懐かしさかがこみ上げてくる。

昨年と比べ天候不順のおかげで最高三三度である。ChoRay病院とHoChiMinh医科薬科大学病院の二班に分かれ研修。ベトナムの食事が合わない学生もいたが、健康面では全く問題なく研修終了した。

自分で考える大切さを知った一二日間

福岡保健医療学部　理学療法学科
二年　佐藤奈菜

私たちはチョーライ病院を訪れた。患者さんからも声をかけて貰い、ジェスチャーを交えながらの交流を行なうことができた。実習経験のない私にとって患者さんに直接触り、リハビリの一部を実施できたことは、とても貴重な経験となった。ベトナムの医療を知ることで、日本の医療を客観的にみることができ、知識を鵜呑みにせず自分で考える事の大切さを知った一二日間であった。これからの学習の中で今回の研修で得た物をしっかり生かし、学んでいきたい。

●呼吸療法を体験

タイ　クリスチャン大学

喧噪と混沌、むせかえるような熱気

成田保健医療学部　理学療法学科
講師　牧原由紀子

三〇名余りの学生を引率し一〇泊一一日のタイ研修に参加した。受け入れ先であるクリスチャン大学の全面的な協力のもと、タイ国内の私立病院、公立病院、エイズ寺、介護施設等を見学し、現地の医療事情を学んだ。日本では考えられない貧富の差、医療格差を目の当たりにし、学生と共に大きな衝撃を受けた。タイはそんな過酷な状況が現実的に存在する喧騒と混沌の地であった。たくましく生きる現地の方々から立ち上る、むせかえるような熱気が一番印象に残っている。

●クリスチャン大学のアコム先生と共に（バンコクスワンナプーム国際空港にて）

医療革新の裏で感じた医療格差

成田保健医療学部　理学療法学科
二年　武井遼馬

私達は海外研修でタイのいくつかの医療施設を見学した。そこで最も印象深かったことは、提供されている医療が地域や患者自身の経済状態によって大きく違うということである。首都にある病院では、医療革新が進み最新の医療機器がいくつも見られたのに対し、地方の施設では、ハーブなどの代替医療を多く用いていた。また同じ病院内でも、医療費を払えない患者と払える患者では全く異なる医療環境になっていた。日本には存在しないような医療格差を肌で感じた。

ミャンマー　ヤンゴン看護大学・ヤンゴン科学技術大学

刺激を受けた元気に活躍する女性の姿

成田看護学部　看護学科
講師　宮本　圭

ヤンゴン看護大学・医療技術大学、ヤンゴン総合病院・国立リハビリテーション病院、そして私立の聾学校など、ミャンマーでは多様な医療・福祉の現場を訪問した。何処でも元気に活躍する女性の姿に刺激を受けた。また、キャンパス・学科を横断して学生らが学び合う姿や、日々異文化に適応していく姿に学生の可能性を実感する研修でもあった。

安全に、安心して充実した研修を送ることができたのはひとえにヤンゴン看護大学・医療技術大学の関係者のみなさんのおかげである。心から感謝したい。

●医療技術大学理学療法学科と交流後の一枚

日本との違いに気付いた二週間

成田保健医療学部　理学療法学科
二年　岡　大地

ミャンマーの医療の現状は、STやOTが無くNSやPTが業務の幅を広げて補っているものの、養成校も指導者も不足している。そのため、日本よりも家族が積極的にリハビリに介入している反面、自立が遅れてしまうという問題がある。また、地雷などの社会的背景から施設内に義足の工房が有り、日本との違いに気付いた。

今回の研修を通じて、限られた環境でミャンマーの医療を良い方向に変えようという専門職の熱い想いを感じた。と同時に、私も恵まれた環境で熱意を持って勉強に励もうと思った。

ラオス　国立健康科学大学

混在した新旧医療に感じた発展

福岡保健医療学部　言語聴覚学科
教授　安立多恵子

ラオスには、五キャンパスから六学科の学生一九名が参加した。研修先は、ビエンチャン市内の主な病院と郊外の地方病院などであった。学生たちは病院内を見学し、医療制度や各病院の役割を学んだ。一昔前と最新の医療が混在した状況を目の当たりにし、発展していくラオスを感じたと思う。

先生や学生だけでなく、出会ったすべての人の心温まる気遣いに触れることができた。今回の研修で気づいたことを大切にし、今後の学生生活をより充実させてほしい。

ネット情報が覆された医療発展への意志

成田保健医療学部　医学検査学科
二年　近藤暢美

事前にネットで得た情報で想像していたラオスと、実際に体験したラオスは、いい意味で全くの別物だった。支援国を手本に電子カルテの導入や、看護師の国家試験の導入など自国の医療を発展させようという意志が強く感じられた。このように、医療スタッフ全員が自国の医療について真剣に考えている姿勢は、私にはとてもいい刺激になった。現地の人はみな親切で優しく、帰国時は見送りに来てくれた学生さん達と抱き合い、涙の別れとなった。

●ラオスの伝統的儀式バーシーにて

オーストラリア TAFEゴールドコースト

自主的な研修で得た貴重な経験

福岡保健医療学部　医学検査学科
講師　佐藤謙一

当研修は、ホームステイと英語教育講義の受講による語学研修が主たる目的であった。併せて、現地の医療福祉事情と認知症の講義、大学病院見学、老人ホーム訪問およびケアフライト（ドクターヘリ運営組織）見学が実施され、生活水準が近い研修地の医療福祉制度の特徴や課題を本邦と比較考察できる好機となった。研修中、学生には、要求・希望がある場合、先ずは自身で交渉してみることを勧めた。現地の人と相談し、考えを実現する姿は頼もしいものであった。

実際に触れるという学び

保健医療学部　言語聴覚学科
二年　依田あかね

海外に実際に足を運ぶことに何の意味があるのか。異文化は本や人の話を通して学べば十分だ。これが今までの私の考えであった。しかし、一大奮起して参加した海外研修で、その考えは一変した。

病院の雰囲気、医療福祉の体制、コミュニケーション、病気に対する考え方…どれをとっても日本とは違い、その差に感動するばかりの二週間であった。この素晴らしい学びを助けてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、今回の体験をまた噛み砕き、自分達の糧としていきたい。

●老人ホームでのTOMODACHI HOURの様子

韓国 建陽（コニャン）大学

思いやりと協力そして感謝

福岡看護学部　看護学科
教授　大池美也子

本研修では小田原・成田・大川・福岡の四キャンパスから、PT、ST、OT、NSの学生計六一名が参加した。各専門領域別の研修では、ハングル語の学習会を始め、病院見学や実技を含めた体験学習など多彩な内容があった。「TOMODACHI HOUR」では、福笑いや達磨落としなど伝統的な玩具に、工夫を凝らしてお互いの交流を深めていた。両大学の学生同士がお互いに思いやり協力しあう姿に、本研修の意義を強く実感できた。コニャン大学の先生方を始め、日本語通訳や各専門領域の学生さんなど多くの方々からきめ細やかな配慮をいただいた。感謝とともに、今後も交流を深めながらお返ししていきたいと思う。

コニャン大学の海外研修を終えて

福岡看護学部　看護学科
三年　白澤瑠菜

●臀部の筋肉注射

私は韓国語があまり得意ではなく、正直不安に思う気持ちのほうが大きかった。しかし、現地の学生や先生は私たち日本の学生のことを温かく迎え入れてくれた。言葉が通じないこともあったが、韓国語のゲームや扇作りなどの文化体験があり、毎日を楽しく過ごすことができた。特に、私が海外研修で学んだことは、言葉が通じなくても身振りやジェスチャーなどを用いて、笑顔でコミュニケーションをとることの重要性である。このことは、医療の現場でも必要だと思った。

韓国 仁済（インジェ）大学

文化・医療事情を学び、交流を深めた貴重な体験

福岡保健医療学部　言語聴覚学科
講師　岩﨑裕子

八月三日から十三日まで韓国の仁済大学で研修を行った。参加者は教員二名と学生二十三名（成田キャンパスPT一名OT一名、大川キャンパスOT一〇名ST一一名）であった。研修内容はOT・STに関する講義、韓国語講座、料理体験、病院見学など大変充実したものであった。

仁済大学の学生との交流や世界遺産の見学もあり、韓国の歴史、文化、医療について有意義な学び、体験、交流が出来た。これを機会に視野を広げ、世界で活躍できるグローバルな人材に育って欲しい。

韓国 建陽（コニャン）大学

違いを感じた二週間

福岡保健医療学部　言語聴覚学科
二年　代田　栞

仁済大学では韓国のST、OTについての講義を受けた。韓国では日本に比べるとSTの対象領域は少なく、PTやOTが多くの分野を占めているように感じた。施設見学では日本にはない機器に触れ、刺激を受けた。韓国の学生の方々や大学の先生方は、私たちが分からないことがあるととても親切にしてくださった。

この二週間で日本と韓国の医療の違いや制度の違いによって出てくる問題の差など様々なことを学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことができた。

●海雲台ペク病院を見学

マレーシア マネジメント&科学大学（MSU）

グローバルな視点を持つ医療職に

福岡保健医療学部　作業療法学科
講師　長谷麻由

八月三日から十日間、学生二三名と引率教員二名がマネジメント&科学大学（MSU）の研修に参加した。研修初日に保健省の職員による医療・福祉制度の紹介などがあり、その後、国立リハビリセンターでの最先端医療から、先住民専門病院でのマレーシア特有の医療まで幅広く見学した。研修期間中は、MSUのボランティア学生のおもてなしのおかげで、学生同士すっかり打ち解けていた。海外に友人を得たこの経験を大切にし、今後はグローバルな医療職を目指してほしい。

医療人としての視野の広がりを実感

福岡保健医療学部　作業療法学科
二年　田中結子

十日間の研修はマレーシアの医療制度や文化を学ぶことができた。東洋医学と西洋医学の診療科が併設している病院や、先住民専門の病院もあった。また、国民と外国人で医療費に差があることやOT・PT・STは国家試験が無いことなど日本と異なる点もみられた。マレー系、中国系、インド系など多様な民族性でありながらそれぞれの文化を尊重しあっている事もマレーシアの特徴だと感じた。今回の経験を生かし、医療人になる為の知識をさらに習得していきたい。

●マネジメント&科学大学キャンパスにて

フィリピン フィリピン大学

言葉の壁を越え楽しい時間を共有

成田保健医療学部　医学検査学科
准教授　工藤芳子

フィリピン大学教職員の方々の温かいご対応と良く準備されたプログラムのお蔭で、学生達は初めてのフィリピン訪問にもかかわらず、楽しく研修することが出来た。また、フィリピン大学生たちの明るく元気な対応も印象的で、言葉の壁を越えて楽しい時間を過ごすことが出来たと思う。公用語を英語としているフィリピンにおけるこの経験から、多くの学生は英語習得への意欲が増したようだ。気温三四度の中、広大なキャンパスを大汗をかきながら回ったのも良い経験だ。

驚いたストレッチャーに乗ったまま治療

成田保健医療学部　理学療法学科
二年　小倉尚冬

研修では、医療事情と各専門職種についての講義と、病院や施設での見学で多くのことを学んだ。国立病院には貧困層の患者さんが集中し待合室から溢れており、ベッド数が不足のためストレッチャーに乗ったまま治療を施していたことに驚いた。また、日常生活では日本に比べて治安が悪く窃盗などが起こると言われていたが、周りに気をつけて自分の身の安全確保を意識すれば安全に楽しく生活できる国であった。フィリピン大学生との交流も楽しく、有意義な研修であった。

●TOMODACHI HOURを終え、白のユニフォームを着用しているフィリピン大学生と

■講演会と説明会■

二〇一七年八月～一〇月の学生募集活動

各キャンパスの学生募集活動は、引き続き講演会・進学相談会、高校訪問等を各地で展開した。

四月に開設した成田キャンパス医学部では、初めてのオープンキャンパスが八月五日に行われ、一期生が話し相手を務めるカフェや、救急対応体験などに多くの来場者が集まった。個別進学相談も行列ができる盛況ぶりだった。医学部関連では、高校教員向けの説明会と医学部棟内覧会を九月九日に、一般説明会を同一〇日にそれぞれ実施。八月六日、二〇日には、成田キャンパス二学部五学科のオープンキャンパスも開催された。

大田原キャンパスに関しては、「薬学フォーラム」を九月九日に宇都宮で開催したほか、一〇月一四日には一般説明会を仙台市で、同二一日には「リハビリフォーラム」を水戸市で実施した。また、九月二四日には小田原キャンパスの説明会を横浜市で開催した。

二〇一八年四月開設予定の東京赤坂キャンパス関連では、八月六日、二〇日の成田オープンキャンパスに合わせて進学説明会を同キャンパス内で実施したほか、八月末の設置認可を受けて九月上旬には、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県内計七一校の指定校を対象に、各参事と東京事務所に教員予定の先生方も加わって、高校訪問を行った。同月二三日には東京青山キャンパスで、認可後初の進学説明・相談会を実施した。

福岡・大川キャンパスでは、特別講演会を九月二日に長崎市、九月九日大分市にて実施。大学祭開催に合わせた講演会も福岡キャンパスで一〇月七日、大川キャンパスで同月八日に実施した。

また一〇月二一日、二二日には福岡タワー前広場にて毎年約一〇万人が来場するイベント「RKBラジオまつり二〇一七」へ出展。骨密度測定・血圧測定などを実施し、四五〇名が来場した。

一〇月二一日には約一万五千人が来場する九州地区で最大の進学相談イベントである「夢ナビライブ二〇一七福岡会場」へ参加。講義ライブ三講義には約五〇〇名、個別相談ブースへは約一〇〇名の来場者数となった。

●RKBラジオまつり2017に出展

●大川キャンパスで講演する岩坂剛高木病院名誉病院長

各講演会・進学相談会の主な登壇者

〈成田キャンパス〉
医学部進学説明会（9月10日）
●北村聖 医学部長
●赤津晴子 医学教育統括センター長

〈大田原キャンパス〉
「薬学部フォーラム」（9月9日）
●北島政樹 副理事長・名誉学長
●武田弘志 薬学部長
●渡邊敏子 薬学科長
「リハビリフォーラム」（10月21日）
●新井田孝裕 副学長
●工藤敬子さん
（ワークライフバランスコンサルタント）

〈小田原キャンパス〉
「高校生のためのキャリアデザイン」（9月24日）
●大友邦 学長
●工藤敬子さん
●黒澤和生 保健医療学部長（理学療法学科長）
●荒木田美香子 保健医療学部副学部長（看護学科長）
●藤本幹 保健医療学部作業療法学科長

〈東京赤坂キャンパス〉
進学説明会（9月23日）
●中村秀一 副大学院長
●高橋泰 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長予定者
●青木万里 心理学科教授予定者
●羽田明浩 医療マネジメント学科准教授予定者

〈福岡・大川キャンパス〉
特別講演会(9月2日)
●深浦順一 大学院教授
●爲数哲司 福岡保健医療学部言語聴覚学科長
特別講演会（9月9日）
●原口健三 福岡保健医療学部作業療法学科長
●糸山泰人 副学長
特別講演会(10月7日)
●大池美也子 福岡看護学部長
●内藤正俊 福岡山王病院長
特別講演会(10月8日)
●永沢善三 福岡保健医療学部医学検査学科長
●岩坂剛 高木病院名誉院長

健康講座一覧表

	2017年9月	2017年10月	2017年11月
国際医療福祉大学病院	「TAKE ABI!2017」 市民公開講座「動脈硬化性病変に対する最新の治療―大動脈治療から指先の血管治療まで―」村上厚文医師 他	—	市民公開講座　循環器センター特別講演会 「加齢に伴う心血管病～最新の治療～」 下川宏明教授（東北大学）、福田浩二医師、高田剛史医師
三田病院	「血液内科のがん治療研究開発への貢献」小林幸夫医師	「乳がんの予防・早期発見と治療」 小川明子医師	「侮ることなかれ肺炎」 望月太一医師
山王病院	「下肢静脈瘤のお話～痛みの少ないレーザー治療～」宮田哲郎医師	「糖尿病教室」　岸本美也子医師、田嶋紀子医師、永井義幸医師、伊藤真理子医師、大田真理医師 他	「ナノナイフによるすい臓がん治療」 森安史典医師
熱海病院	「臓器移植の最近の話題」 白井博之医師	「最新の胃がん治療」 瀬上顕貴医師	「心臓病の予防について」 重政朝彦医師
市川病院	医療連携懇親会 角田亘医師、板野理医師	「なぜ今乳がんなの?～正しい知識で自分を守る～」 金澤真作医師	「健診で血尿と言われたら」 宮﨑淳医師
塩谷病院	第4回 市民公開講座 「その病気　何科にかかる?」 北嘉昭医師	第5回 市民公開講座『「てんかんと暮らす」ための知識―患者さんと社会の理解を深めるために―』 小黒惠司医師 第1回 糖尿病教室 「糖尿病について」家入蒼生夫医師	第6回 市民公開講座「この冬、感染症から身を守ろう!―ノロウィルス、インフルエンザの正しい予防―」 遠藤史郎医師 第2回糖尿病教室 「振り返ってみよう 食事と塩分」斎藤聡美（栄養科副主任）

生涯学習のご案内

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学修の場を提供しています。

IUHW Graduate School Informations

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、
大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

2018年度 入学生募集

学内推薦入試・入学金免除・奨学金制度あり
（本学卒業生及び卒業見込者対象）

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい3つの特長

①キャンパス	大田原、成田、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に7つのキャンパスを開設しています。
②カリキュラム	多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行っています。
③同時双方向遠隔授業	複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

国際医療福祉大学大学院の課程編成

医療福祉学研究科

修士課程

保健医療学専攻
●看護学分野
●特定行為看護師養成分野
●助産学分野
●理学療法学分野
●作業療法学分野
●言語聴覚分野
●視機能療法学分野
●福祉支援工学分野
●リハビリテーション学分野
●放射線・情報科学分野
●生殖補助医療胚培養分野
●医療福祉教育・管理分野
●臨床検査学分野
●災害医療分野

医療福祉経営専攻
●医療経営管理分野
●診療情報アナリスト養成分野
●医療福祉国際協力学分野
●先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
●医療福祉学分野
●医療福祉ジャーナリズム分野
●医療通訳・国際医療マネジメント分野

臨床心理学専攻

博士課程

保健医療学専攻
●看護学分野
●助産学分野
●理学療法学分野
●作業療法学分野
●言語聴覚分野
●視機能療法学分野
●福祉支援工学分野
●リハビリテーション学分野
●放射線・情報科学分野
●生殖補助医療胚培養分野
●臨床検査学分野
●医療福祉経営学分野
●診療情報管理・分析学分野
●医療福祉国際協力学分野
●先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
●医療福祉学分野
●医療福祉ジャーナリズム分野
●臨床心理学分野

薬学研究科

博士課程（4年制）

医療・生命薬学専攻

薬科学研究科

修士課程

生命薬科学専攻
●生命薬学分野
●医療薬学分野

TOPICS 2018年4月 東京赤坂キャンパス開設予定!

東京都港区赤坂の旧赤坂小学校跡地に開設する赤坂キャンパスでは、現在の東京青山キャンパスを移転して新しい分野・コースを開設し、生涯教育の拠点として大学院教育のさらなる拡充をめざします。

詳細は大学院ホームページをご覧ください
http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/index.html

大学院入試に関するお問い合せは入試事務室まで（TEL：0287-24-3200）

学べる!役立つ!究める!動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ

医療福祉eチャンネル http://www.ch774.com 好評配信中

主な配信番組

●介護・福祉分野
自立支援型ケアマネジメント・自立支援介護

●リハビリテーション共通分野
リハビリ職のための医療福祉管理

●受験講座
ケアマネジャー受験講座2017

●医療・福祉・経営実務
社会保障の政策形成の最前線2
保健医療福祉政策論2

●厚生労働省情報
障害保健福祉関係主管課長会議
（平成29年3月8日開催）※無料配信
老健局全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議
（平成29年3月10日開催）※無料配信

●乃木坂スクール
支援機器活用の最前線（生活支援機器概論）

●情報BOX
納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)

お問い合わせは　フリーダイヤル　0120-870-774　医療福祉eチャンネル お客さま係（月曜～金曜 9:00～17:00）
Eメール info@iryoufukushi.com　〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

IHWグループ職員・学生向け動画配信サイト「国際医療福祉大学VODライブラリー」http://www.ch774.com/student.php

主な配信番組
●大学授業・副教材
死生学～死を通して生を考える～、教育学、雑談と傾聴～話す力と訊く力～、日本近現代史、宗教学、国際医療福祉論、世界遺産と国際文化政策、ボランティア論、医学・医療史、生命倫理、メディカルマナー入門、医療福祉教養講義、健康科学理論、リスクマネジメント論　など

広報誌 IUHW 111 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
〔成田キャンパス〕
千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-20-7701
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25（本校舎）☎0465-21-6500
〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4（1号館）☎092-407-0805
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000
編集：東京事務所広報部 ☎03-3475-7710
デザイン：野佐デザイン

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学

ホームページでもご覧いただけます。
http://www.iuhw.ac.jp/

ⓒ国際医療福祉大学2017　Printed in Japan　禁無断転載・複写

小田原キャンパス合唱部「うたよみ」

創部は平成24年。春休みや夏休みに、病院や老人ホームなどの施設を訪問してボランティアで合唱曲を歌う。

現在の部長は作業療法学科の工藤実桜さん。もともと歌を歌うのが好きで、いつかはボランティア活動に取り組みたいと思っていたことから、「うたよみ」に入部した。メンバーは2年生4人、1年生2人の6人。毎週火曜日、授業を終えて午後6時からが練習日。

最近では国際医療福祉大学熱海病院をはじめ、小田原市の老人ホーム「慶愛苑」や神奈川県南足柄市の障がい者支援施設「足柄療護園」を訪問している。

プログラムは30分から1時間。高齢者になじみのある「ふるさと」「紅葉」などの童謡や「花は咲く」「心の瞳」「365歩のマーチ」など。時には「遊び歌のコーナー」として、手拍子で参加してもらったり、一緒に歌ってもらったりしている。リクエストに応えて「サザエさん」や「365日の紙飛行機」を歌ったことも。

「楽しそうに聴いてくれたり、一緒に口ずさんでくれたり、なかには体全体でリズムを取ってくれる方もいて、なみだを流しながら感動してくれている姿をみて、とてもやりがいを感じています」と工藤さん。

毎年4月のオリエンテーションと10月の潮風祭で部活動の紹介や歌を披露する。今年は工藤さんの発案でスキマスイッチの「奏」やスピッツの「空も飛べるはず」など学生に人気の歌を織り交ぜてみたという。

姉が理学療法士だったこともあって、小田原キャンパスのオープンキャンパスに参加したところ、チーム医療・チームケアや関連職種連携教育に関心を持ち、作業療法士となって「多くの人の家庭生活や地域生活への復帰に携わりたい」と本学に入学した。

先輩らが訪れた病院・施設から継続的に依頼があるものの、授業で忙しくて訪問が十分にできないことと、実習が本格化する3年になると引退するため部員が少ないのが悩みで、「もっと部員を増やしたい。歌に厚みが増すので、できれば男性も。歌がそんなにうまくなくても、好きなら入部してもらえるとうれしい」と話す。